村上　伸也　先生

略歴

1988年　大阪大学　大学院歯学研究科　修了
1988年　米国国立衛生研究所（NIH）研究員（visiting fellow）
1990年　大阪大学・助手　歯学部
1992年　大阪大学・講師　歯学部附属病院
2000年　大阪大学・助教授　大学院歯学研究科
2002年～現在に至る
　　大阪大学・教授　大学院歯学研究科
　　（口腔分子免疫制御学講座　歯周病分子病態学・歯周病診断制御学分野）
2016年～現在に至る
　　大阪大学歯学部附属病院　病院長
2019年　特定非営利活動法人　日本歯周病学会　理事長

2017 World Workshop on the Classification of Periodontal and Peri-Implant Diseases and Conditions
―その成果から学ぶべき事―

大阪大学大学院歯学研究科 歯周病分子病態学
村上　伸也

2017年11月，世界各国から100名以上の歯周病学分野のリーダーがシカゴに集結し，アメリカ歯周病学会（AAP）・ヨーロッパ歯周病学連盟（EFP）共催ワークショップ「the workshop on the classification of periodontal and peri-implant diseases and conditions」が開催されました。その主たる目的は，前回1999年に歯周病分類が発表されて以来蓄積されてた科学的根拠を基にして，その分類をアップデートし，新たな歯周病分類を提言することでした。ワークショップの参加者は歯肉炎，歯周炎，他の歯周疾患，インプラント周囲炎の4つのグループに分かれ，前回のワークショップ以降蓄積された科学的根拠を分析し，議論を重ね，後日，その成果はコンセンサスレポートとしてまとめられ，2018年6月にその全文が「歯周病の新分類」としてJournal of PeriodontologyおよびJournal of Clinical Periodontologyにおいて無料公開されて，AAP・EFPのウェブサイトにおいても閲覧が可能です。歯周組織における炎症・感染の制御を治療の対象としている私たちにとって，歯周病の新分類の一項目として「インプラント周囲炎」が新項目として加わった事は，大変意義深い事と捉えることが出来ます。

そしてこのワークショップの成果として，最も大きな変化が示されたのが「歯周炎の分類」です。1999年に定められた現在の分類は，いわゆる歯周炎を侵襲性歯周炎と慢性歯周炎に大きく2つに分けるものでしたが，新分類では，これらの病名は廃止され，1つの歯周炎としてまとめられました。さらに，ステージ（病期，進行度合い）とグレード（進行リスク）という，腫瘍や線維症といった慢性疾患でしばしば用いられる診断のフレームワークが導入されました。具体的には，歯周炎が4つのステージ（ステージ1が最も軽症，ステージ4が最も重症）に分けられ，進行リスクは3つのグレード（グレードAが最も低いリスク，グレードCが最も高いリスク）に分けられました。現時点で明確な科学的根拠を採用するという考えを基に，グレードの決定に際しては喫煙などのリスク因子や糖尿病などの併発疾患が勘案されることとなっています。

現在，これまでの慢性歯周炎・侵襲性歯周炎という分類と，ステージ・グレードを基にした分類の2つの分類法が我が国には存在する現状において，臨床の現場における歯周病の新分類を取り入れ方について混乱が生じ始めているものと危惧しています。また，新分類のコンセンサスレポートのAppendixにおいて，「歯周炎の疫学調査や研究においては，日常臨床で用いる新分類より，精密かつ詳細な症例定義の必要がある」とも述べられていることから，その事に対する対応も議論する必要があります。今回の講演では，歯周病，とりわけ歯周炎の新分類に焦点をあて，その概説をさせて頂くと共に，上記のポイントについても議論させて頂きたいと考えています。